

(様式7)

学位論文審査結果の要旨

氏名	岡野 のぞみ
審査委員	委員長 古川 勝 印 委員 谷本 圭志 印 委員 福山 敬 印 委員 _____ 印 委員 _____ 印
論文題目	社会の分断や孤立を招く現象のオピニオンダイナミクスによる分析
審査結果の要旨	<p>本論文は、計算社会科学分野のオピニオンダイナミクス、中でも社会の人々の中の信頼関係に不信を含める拡張がなされた Trust-Distrust Model を用い、一つは社会の中での孤立、もう一つは社会の分断・分裂といった社会現象についてシミュレーションし分析している。こうした問題は、社会の中での合意形成を前提とする従来のモデルでは分析できない。</p> <p>Trust-Distrust Model は、メディア等による意見誘導を含められる。社会の構成員は、メディア等からの直接的な影響に加え、社会の中での情報交換によっても間接的な影響を受ける。メディアの影響を全く受けない構成員でも、社会の構成員間の接続率が高いほど、また構成員がお互いを信頼する割合が高いほど、構成員間の意見交換によってメディアに意見誘導されることが示された。</p> <p>社会の中で他の構成員から厚い信頼を得ている「カリスマ」と、孤立した構成員を作ったシミュレーションも行われた。それらの間の信頼関係や、カリスマの意志の強さを様々なパターンでシミュレーションし、カリスマの社会からの信頼度を利用する形で孤立を解消する可能性が示された。</p> <p>社会を二つの意見グループに分けたシミュレーションでは、各グループ内の構成員間の信頼度が高く、グループ間では不信の関係にあるとき、意見がクラスター化しやすく、社会は分断した状態になりやすいことが示された。また、構成員間の接続率が高いほど意見がクラスター化しやすいことも示された。さらに、グループ内の一部が他グループを信頼する状況では意見がクラスター化しにくくなる場合があることも示された。</p> <p>対面によるつながりに加え、ソーシャル・メディア・ネットワークサービス (SNS) 等による質の異なるつながりも考慮するため、多層ネットワークによるシミュレーションも行われた。地理的なつながりをより現実的に表現するため、2次元ネットワークへも拡張された。コミュニティの大小やつながりの強さによる意見形成の様子の違いを分析できることが示された。</p> <p>以上、本論文は Trust-Distrust Model を用いたシミュレーションにより社会で問題となる現象を分析したものであり、社会問題の解決につながり得る知見を得ている。よって、本論文は博士 (工学) の学位請求論文として合格と認められる。</p>

本論文は、令和3年12月22日に逝去された石井晃教授の指導の下で執筆された。